



平成 27 年 12 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 27 年 4 月 24 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務人事部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210
 四半期報告書提出予定日 平成 27 年 4 月 24 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 27 年 12 月期第 1 四半期の業績 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 12 月期第 1 四半期	3,166	84.8	105	82.3	104	83.8	52	37.5
26 年 12 月期第 1 四半期	1,713	29.6	58	63.0	56	46.1	38	48.4

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27 年 12 月期第 1 四半期	17.81	17.47
26 年 12 月期第 1 四半期	13.32	13.23

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27 年 12 月期第 1 四半期	4,194	1,203	28.5
26 年 12 月期	4,084	1,197	29.1

(参考) 自己資本 27 年 12 月期第 1 四半期 1,195 百万円 26 年 12 月期 1,188 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26 年 12 月期	—	0.00	—	20.00	20.00
27 年 12 月期	—	—	—	—	—
27 年 12 月期(予想)	—	—	—	10.00	—

- (注) 1. 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無
 2. 26 年 12 月期期末の配当金の内訳 普通配当 10 円 00 銭 復配当金 10 円 00 銭
 3. 27 年 12 月期 (予想) の中間配当につきましては未定です。

3. 平成 27 年 12 月期の業績予想 (平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	6,363	77.6	194	22.3	189	20.6	80	△32.0	27.08
通期	15,299	74.0	754	30.3	748	30.0	388	△22.7	131.33

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年12月期1Q	2,967,900株	26年12月期	2,954,400株
② 期末自己株式数	27年12月期1Q	一株	26年12月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年12月期1Q	2,959,519株	26年12月期1Q	2,878,002株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 業績の状況	2
(2) 財政状態の分析	3
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題	3
(4) 研究開発活動	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀の財政・金融政策の効果により、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、消費税増税による個人消費減少の影響が引き続き見られており、先行きは不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、消費税増税による個人消費の低下に加え、円安の影響による原材料価格の高騰や人材不足により、厳しい経営環境が続きました。

こうした状況のもと、当社は「お客様の感動創造を実現」を基本方針として、いきなり！ステーキ業態の出店拡大に取り組んでまいりました。また、引き続きお客様への安心・安全な商品提供ができる体制強化に努めてまいりました。原材料価格の高騰により2月から一部商品の値上げを行ったものの、それを補う価値ある商品の提供により売上は好調に推移致しました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高3,166百万円（前年同期比84.8%増）、営業利益105百万円（前年同期比82.3%増）、経常利益104百万円（前年同期比83.8%増）、四半期純利益52百万円（前年同期比37.5%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、主力商品である「ワイルドステーキ」で使用している牛肉を米国農務省認定プレミアム・アンガス・ビーフ（CAB）に切り替え、品質の向上を図り、キャンペーンによる訴求強化を行いました。また、ペッパーランチの出店を強化するため、3月のFCショーに出展し、期間限定（3月4日～5月31日）で加盟店0円のキャンペーンを実施し、加盟の促進を図ってまいりました。

海外におけるペッパーランチ事業では、新たな地域である北米にカナダ1号店を出店しました。各店舗の売上は、引き続き好調に推移しており、新規出店に伴う機器等の売却、ロイヤリティ収入などの売上高は68百万円（前年同期比25.8%増）となりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は1,227百万円（前年同期比10.8%増）、営業利益は209百万円（前年同期比20.8%増）となりました。また、新規出店数は3店舗（うち海外3店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は316店舗となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、牛たん業態「牛たん仙台なとり」が、3月にイオンモール伊丹店を出店し、合計12店舗となりました。ステーキ業態「炭焼ステーキくに」では、赤坂店、両国店の2店舗限定で月に1回行われている異業種交流会「美味しいステーキを楽しく食べるタベ」の継続的な開催により、ブランドイメージの向上を図ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は548百万円（前年同期比19.0%増）、営業利益は25百万円（前年同期比193.1%増）となりました。また、新規出店数は1店舗であり、レストラン事業全体の店舗数は22店舗となっております。

③ いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、年間53店舗出店を目標にスタートが切られ、2月には東北初となる仙台店を出店しました。更なる認知度向上を図るため、テレビCM等を実施し、オープン当初から売上は好調に推移しました。これにより今後の全国展開への大きな足掛かりとなりました。また、新たな試みとして店内にチャージ制の椅子席を設置し、予約の受け付けをスタートしました。今後の新店の店舗面積や立地等により、積極的に導入を目指して参ります。2月に多くのお客様からの要望に答え、ワサビ等調味料のバリエーションを広げ、お客様満足度向上に努めております。また、本部研修センターの新設やステーキマイスター制度を導入し、従業員のスキル向上と商品レベルの維持向上に努めております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は1,380百万円（前年同期比912.5%増）、営業利益は77百万円（前年同期比435.9%増）となりました。また、新規出店数は6店舗であり、いきなり！ステーキ事業全体の店舗数は36店舗となっております。

④ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」、「冷凍ペッパーライス」及び「冷凍ハンバーグ」の販売において新規顧客の獲得目指し、ネット販売を中心に行ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は9百万円（前年同期比30.0%増）、営業損失は0百万円（前年同期は1百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて110百万円増加し4,194百万円になりました。これは主に、現金及び預金が128百万円減少したこと、売掛金が46百万円減少したこと、繰延税金資産が30百万円減少したこと、建物(純額)が188百万円増加したこと並びに敷金及び保証金が126百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて104百万円増加し、2,991百万円となりました。これは主に、買掛金が145百万円増加したこと及び未払金が67百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて6百万円増加し、1,203百万円となりました。これは主に、四半期純利益を52百万円計上したこと及び配当による剰余金の処分により利益剰余金が6百万円減少したこと並びに新株予約権の行使に伴い資本金、資本準備金がそれぞれ5百万円増加したことによるものです。また、自己資本比率は前事業年度末から0.6ポイント減少し、28.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	974,959	846,685
売掛金	506,753	459,831
商品	63,444	66,539
貯蔵品	8,214	8,356
繰延税金資産	126,681	96,046
その他	312,118	259,793
貸倒引当金	△7,567	△5,726
流動資産合計	1,984,603	1,731,527
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,358,861	1,577,672
減価償却累計額	△389,226	△419,040
建物(純額)	969,634	1,158,632
その他	646,742	696,578
減価償却累計額	△410,049	△427,990
その他(純額)	236,692	268,588
有形固定資産合計	1,206,327	1,427,221
無形固定資産	58,794	57,148
投資その他の資産		
敷金及び保証金	772,283	898,457
その他	73,675	91,780
貸倒引当金	△11,543	△11,248
投資その他の資産合計	834,415	978,989
固定資産合計	2,099,537	2,463,359
繰延資産		
社債発行費	101	49
繰延資産合計	101	49
資産合計	4,084,241	4,194,937

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,015,428	1,160,516
短期借入金	32,800	59,267
1年内返済予定の長期借入金	268,720	290,380
未払金	395,755	328,288
未払法人税等	52,378	16,636
賞与引当金	—	15,000
役員賞与引当金	7,900	—
資産除去債務	2,663	3,129
その他	234,859	265,651
流動負債合計	2,010,504	2,138,869
固定負債		
長期借入金	451,483	421,765
受入保証金	333,279	331,279
繰延税金負債	14,486	17,336
資産除去債務	70,762	78,443
その他	6,361	3,855
固定負債合計	876,372	852,679
負債合計	2,886,877	2,991,549
純資産の部		
株主資本		
資本金	834,237	840,017
資本剰余金	114,750	120,530
利益剰余金	239,630	233,243
株主資本合計	1,188,618	1,193,791
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	365	1,291
評価・換算差額等合計	365	1,291
新株予約権	8,380	8,305
純資産合計	1,197,364	1,203,388
負債純資産合計	4,084,241	4,194,937

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	1,713,114	3,166,299
売上原価	840,932	1,729,206
売上総利益	872,181	1,437,093
販売費及び一般管理費	814,140	1,331,281
営業利益	58,040	105,811
営業外収益		
受取利息	50	69
受取賃貸料	1,297	1,297
協賛金収入	2,012	984
その他	467	1,631
営業外収益合計	3,827	3,982
営業外費用		
支払利息	2,305	2,228
社債利息	325	123
減価償却費	367	344
為替差損	917	1,743
その他	1,084	842
営業外費用合計	5,001	5,283
経常利益	56,867	104,510
特別利益		
新株予約権戻入益	9	17
特別利益合計	9	17
特別損失		
固定資産除却損	483	225
減損損失	1,609	—
特別損失合計	2,093	225
税引前四半期純利益	54,783	104,301
法人税、住民税及び事業税	14,676	18,629
法人税等調整額	1,778	32,971
法人税等合計	16,454	51,600
四半期純利益	38,328	52,700

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

平成26年2月14日開催の取締役会において、平成26年3月26日開催の定時株主総会に、次のとおり資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について付議することを決議し、同定時株主総会にて承認可決されました。

(1) 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として資本準備金の額を減少し、欠損填補に充て早期復配体制の実現を目指すものであります。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額

資本準備金 676,043千円

増加する剰余金の額

その他資本剰余金 676,043千円

(3) 剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額

その他資本剰余金 676,043千円

増加する剰余金の額

繰越利益剰余金 676,043千円

上記の結果、当第1四半期累計期間において資本剰余金が676,043千円減少し、利益剰余金が676,043千円増加しております。なお、当第1四半期会計期間末においては資本剰余金741千円及び利益剰余金が△224,300千円となっております。

当第1四半期累計期間(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月25日 定時株主総会	普通株式	59,088	20.00	平成26年12月31日	平成27年3月25日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパー ランチ事業	レストラン 事業	いきなり! ステーキ事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	1,108,527	461,301	136,360	6,924	1,713,114	—	1,713,114
計	1,108,527	461,301	136,360	6,924	1,713,114	—	1,713,114
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	173,631	8,532	14,368	△1,016	195,517	△137,476	58,040

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△137,476千円は、各報告セグメントに配分していない
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」において、当第1四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等
について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損
失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては1,609千円でありま
す。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパー ランチ事業	レストラン 事業	いきなり! ステーキ事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	1,227,782	548,892	1,380,624	9,000	3,166,299	—	3,166,299
計	1,227,782	548,892	1,380,624	9,000	3,166,299	—	3,166,299
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	209,748	25,008	77,008	△625	311,140	△205,328	105,811

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△205,328千円は、各報告セグメントに配分していない
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、これまで「レストラン事業」に含まれていた「いきなり!ステーキ事業」について、前第3四半期
会計期間の組織変更に伴い、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載しておりま
す。